

令和３年度第１回 大阪市社会福祉審議会
地域福祉専門分科会（会議要旨）

１ 開催日時 令和４年２月２８日（月）午前１０時３０分～１２時００分

２ 開催場所 大阪市役所 屋上階 Ｐ１共通会議室

３ 出席委員 １３名

（来庁）大前委員、奥井委員、倉光委員、中村委員、野口委員、藤井委員、
山本委員、吉川委員

（Web）小野委員、笠原委員、佐田委員、永岡委員、前田委員
五十音順

Web出席委員について、映像・音声により委員本人の確認を行った。

４ 議事

（１）専門分科会長の選任について

（２）地域福祉に関する実態調査について

（３）大阪市地域福祉基本計画の進捗状況について

【議事（１）】

- ・事務局から参考資料１・２に沿って説明
- ・専門分科会長として藤井委員を選出
- ・専門分科会長職務代理者として小野委員を選出

【議事（２）】

- ・事務局から資料１～５に沿って説明

（主な意見）

- ・特に福祉専門職調査について、福祉施設へは他の調査やアンケートも多く、自由記述欄ははじめ回答に要する時間が負担になっている。こういう時期であるので、自由記述欄に書きたいことが多いと思われるが、それを含めると、時間を要するだろうと思われ、途中でアンケートの回答をやめてしまわないか、という危惧もあり、回答率が下がる要因にもなりうるので、丁寧な依頼と説明が必要。
- ・他都市と比較をするためには、共通の設問が必要なのではないか。例えば国勢調査と同時に実施することはできないのか。
- ・高校生の方が親の介護をしたりする事例もある。その世代に対する調査も実施する必要

がある。

- ・世論調査の質問9において、寄付の有無を尋ねる際に「赤い羽根共同募金」や「善意銀行」を例示している。ここで「3 したことがない」を選ぶと質問10に跳ぶので、質問9 - 1に挙げているインターネットを活用したものなど新たな寄付の形態を伝える機会がなくなる。記載に工夫が必要。

【議事（3）】

- ・事務局から資料6・7に沿って説明

（主な意見）

- ・前回の調査結果を踏まえて、今期の計画策定をしている。今回の調査実施にあたっては、経年比較も大事であるが、計画の進捗状況や評価、現時点の課題を踏まえるべきではないか。
- ・各施策に対する各課の自己評価について、評価項目は置かれているのか。主観的なものになっているのではないか。引き続き検討が必要。
- ・評価はA B Cというのが解りにくい。今どき使わない。点数表や、A A Aなどの表記も検討いただきたい。
- ・評価が主観的であるので、客観評価をきちんとしていかないといけないということがこの2期計画の課題である。
- ・B評価はコロナ影響によるものということだが、その中でもやっていっている取り組みもある。コロナ以外の課題によるものがあつたのか、事業として十分でない点があつたのか、今後検証が必要。
- ・各事業の評価のほかに、基本目標につながっていくような全体的な評価も最終的には必要になる。
- ・重要事項に関するプログラム評価、各区の取り組みに関する進捗状況の評価の枠組みについては、来年度以降しっかり検討していきたい。